

米軍、停止要請を無視

オスプレイの飛行強行

沖縄・神奈川で目撃相次ぐ

陸自は停止へ

米空軍横田基地（東京都）所属の特殊作戦機CV22オスプレイが29日午後、屋久島（鹿児島県屋久島町）沖で墜落した事故をめぐり、木原検防衛相は30日の参院外交防衛委員会、「捜索・救難活動を除き、安全が確認されたから飛行を行うよう要請した」と述べ、米軍にオスプレイの飛行停止を要請したことを明らかにしました。要請は同日朝8時、在日米軍のラップ司令官に行いました。

ところが同日午後、綾瀬市の海老名市、藤沢市など神奈川県内の複数の地点で、住宅など人口密集地上を飛ぶ複数のオスプレイが相次いで目撃されました。住民からは怒りと不安の声が相次いでいます（3面に詳報）。普天間基地（沖縄県宜野湾市）周辺でも30日、同基地所属のMV22オスプレイの飛行が終日確認されました。政府の要請さえ平然と無視し、日本を植民地扱いする米軍の横暴ぶりが示されました。また、防衛省は陸上自衛隊のV22オスプレイをめぐる隊のV22オスプレイをめぐり、亡が確認された男性1人は搭乗員であると確認され、30日午後、遺体が米側に引き渡されました。日本国内で起きたオスプレイの事故で死者は初めて。海上保安庁や自衛隊などは残る7人の救助、捜索を続けています。

事故をめぐって、防衛省は29日夜の時点で「不時着水」と表現していました。30日時点で「墜落」と言い換えました。いずれも米軍の説明の変更に伴うものだと思います。

↓関連の①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

その上で、志位氏は沖縄県名護市にオスプレイが墜落した事件が起きた際、米軍が飛行の再開を決めると、事故原因が究明されていない段階で日本政府がたんに追認したことを挙げ、「だらしないう態度をとってきた」と指摘。オスプレイの最低飛行高度について日本の航空法1500メートル以下に低く設定されているとして、「米国のいならぬだらしない態度が、さまざま事態を招き、今回の事故にもつながる結果をつくっている。こういう姿勢を根本からただすことを強く求めていきたい」と主張しました。

欠陥機撤去を求める

志位委員長が会見



記者会見する志位和夫委員長（30日、国会内）

日本共産党の志位和夫委員長は30日、国会内で会見し、米軍横田基地所属のオスプレイが鹿児島県・屋久島沖で墜落したことについて、オスプレイは開発段階から事故を繰り返し、構造的な欠陥機と言われている。そのような危険な軍用機だ。そういう危険なオスプレイの配備を容認宛てに緊急の要請を行った

し、さらに自衛隊のオスプレイ導入を推進してきた自公政権の責任はきわめて大きい」と指摘しました。

志位氏は、党国会議員団が同日、岸田文雄首相、上川陽子外相、木原検防衛相宛てに緊急の要請を行った